

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200234		
法人名	株式会社 みくに		
事業所名	グループホーム みくに 栄の園		
所在地	〒271-0061千葉県松戸市栄町西 5-1397		
自己評価作成日	平成25年1月4日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404
訪問調査日	平成25年 1月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>24年度の介護目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄の失敗をなくすなど、清潔を与える介護を行なう。 2. 毎月1回、防災訓練を実施するなどして、人命第一の介護を目指す。 3. ご利用者ご家族の声を日々の介護に取り入れる。 4. お祭りなどの施設行事だけでなく、「ふれあいカフェ」など日常的な活動を通して施設を地域に開放し、地元の店での買い物、飲食、「クリーンディ」へのご利用者の参加などで、地域の中に溶け込むように努める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所はクリーンディ(江戸川土手周辺地域の清掃)など、地域の行事へ職員と元気な利用者が参加するとともに、事業所の庭を利用し、運動会、夏祭りの開催やテラスを利用したクリスマスやふれ合いカフェの開催など、地域との交流を図っている。また、近隣住民からの提案で芝刈りや植栽の手入れで協力を得るほか、菜園で利用者がおこなう土いじりの提供を得るなど、普段の暮らしの中で身近な関係が築けるよう努力をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分にしてもらいたいことを人にもそのようにしなさい」と言う理念と3つ介護方針(できることはしていただく介護、安心と清潔を与える介護、生きがいつくりの介護)を掲げ、それに沿って、日々実践しています。	事業所は理念に沿った介護を推進するため、毎食前に、「共に暮らす人を信頼しましょう。」「何時でも感謝の心を持ちましょう。」「お互い許し合って助け合しましょう。」のみくに3ヶ条を職員と利用者が共に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受入れ窓口を設け、参加していただいております。また、祭り、クリスマスなどの施設行事に招待すると共に、クリーンデイ(江戸川土手周辺地域の清掃)にお元気な利用者に参加してもらっています。	地域の行事へ参加するとともに、事業所の庭を利用し、運動会、夏祭りの開催やテラスを利用したふれ合いカフェの開催など地域との交流を図っている。また、近隣住民からは芝刈りや植栽の手入れ、菜園での土いじりの提供などの協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第2、第4日曜日「ふれあいカフェ」を開催し、認知症の方とのふれあいを通して認知症への理解を深めていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員の提案で、玄関前の植栽を休憩所に替えるため、その方のリードで利用者と共にボランティアが作業することになっています。お祭りやイベントで町内会のパイプ椅子をお借りしています。	地域包括センターの職員、介護相談員、民生委員、地域住民等の参加を得て、毎奇数月の第2土曜日に開催し、近隣住民の提案等を事業所の運営に反映している。また、委員の提案で火災訓練の視察も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	松戸市のグループホーム協議会に入会し、市の介護サービスの向上に協力しています。一部の利用者の徘徊については松戸市の担当課と報告相談連絡を密に行っています。	介護支援課からの依頼で妄想性障害者の入居に応じ、きめ細かく対応するなど市の要請に応じている。また、ホーム長がグループホーム協議会の事務局長を務めていることから、事業所と協議会の意見を市に伝え助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に研修会に出席してもらい、研修結果を勉強会などを通し周知徹底し共有しています。施錠については近隣、ことに堤防下道路の激しい交通量を考慮し、家族の同意を得て、施錠をしています。	帰宅願望や、会社が心配だと言う利用者があり、職員の見守りネットワークを潜って外出し、戻れなくなる事例もある。事業所は行き先の警察、郵便局、銀行等に出向き丁寧に対応しているが、加えて事業所は利用者に不安や混乱が生じない支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を持ち、周知徹底を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに施設にも成年後見制度を利用されている方が入所されており、後見人の方から権利擁護についていろいろと教えていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にホーム長、管理者が十分な説明をさせていただき、その後も電話や面談で補足させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要なお意見の一つである苦情相談の書式と手続きを定め、実施しています。面会時、カンファレンス、電話などで利用者のご自宅の様子や意見・苦情相談をお聞きしケアプランや実際の介護に反映しています。	職員は、理念に基づき、日々利用者の介護に努め、個々の要望に対応している。また家族等が事業所に対し、意見・苦情を言い易いように、面会時または電話で家族の意見を聴いている。時には下着が間違っているとの苦情もあり、スタッフの訓練に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回必ず職員の会議を持ち、介護への意見提案、トラブル解決策を汲み上げ、利用者の個別対応にまで反映しています。	事業所は開設後1年足らずであり、経験の浅い職員もいるが、利用者との日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを活かし運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、賃金規定、退職金等の整備を行って、職員がモチベーションをもてるように工夫・努力をしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設前とその後の中途採用時にオリエンテーションと職員研修を行い、年間研修計画に基づいて施設内外の研修に参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会や施設見学会等で、他施設の職員との交流を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には利用者の自宅に話しを聞きに伺ったり、施設に来て頂き、一緒におやつを食べて頂いたり、その方が安心できる環境と認識なさるまで十分に時間をかけるよう配慮しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学などはいつでも受け付けております。また相談事や電話での対応も、施設において、あるいはご自宅までお伺いして、やらせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めには複数のケースを知って頂くことも大切と考え、当方以外の施設見学への協力、あるいは施設やサービスの紹介なども行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お元気でやる気のある利用者と調理や掃除、庭の手入れ、園芸などを一緒に行うことで共に連帯感を持ち、利用者も職員もお互いにやる気が出てきています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子をその都度伝え、ケアへの協力をお願いしています。またご家族が参加できる行事(夏祭り・お誕生会・クリスマス会など)を行って、共に楽しんで頂く機会を提供しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へのお出かけや墓参りに行くのを支援したり、かかりつけの医師に往診してもらったりしています。	利用者の生活圏は自動車で20分～30分の範囲内であり、美容院や買物、墓参など、本人が地域や地域住民との関係を継続できるように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を気の会った同士で座るように配慮をし、帰宅願望の強い利用者のお話相手をしていただくなど、個々の利用者のお気持を尊重し、利用者同士が支えあう関係作りを大事にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所は入院先での死亡による退所1名だけです。その方の葬儀には家族の一員として参列させていただきました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握は大切だと考えています。言葉では言えない方の気持ちの受け止め、何か一つでも求めることがあればやってあげようと、工夫をしております。	利用者に対し様々な工夫を重ね、支援の基本としている。民間企業で統括経験を持つ管理者のファイリング、職員との協働、利用者に添う支援など、福祉分野ベースだけでない支援が新鮮に感じられる。開業9ヶ月目のホームとは思えないほど、家族の支持が厚い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの背景の把握は大切な作業なので、ご本人ご家族への聞き取りによってこれらのなるべく正確な把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プラン作成の柱でもあるこれらの事象を、正確に把握するため、センター方式を使って情報を整理し一人一人の暮らし方の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とのカンファレンス、面談、電話などで意見要望を伺い、毎月の職員の会議や毎朝夕の申し送り時に表明された意見提案をケアプランに反映しセンター方式で整理してケアプランを作り上げています。	利用者調査では介護計画・経過記録に対する家族との協働に100%の支持がある。一般的に計画と記録への協働の反応は高くない。開業以来8ヶ月目の調査に臨み、家族は説明と納得と信頼のコメントを寄せている。制度の根幹である計画への協働結果は素晴らしい。	この事業所に限らず介護計画と経過記録の家族との協働成果はプロの管理者でも挙げにくい。計画や記録に限らず管理機器を駆使し合理的で俊敏・かつ即応性を基本とする管理は当業界の喫緊の課題ではないだろうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的にセンター方式を採用しているが、個別記録などに独自の工夫もあります。新規作成や見直し評価への家族の同意を得る際の情報の共有も行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	段階ごとの介護への実践に注意を注いでおります。利用者の状態に沿うケアを求めらる中で、スキルの多様化、研修の必要性など、必然的に職員ともども多機能化が実践されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、警察、郵便局、薬局、教会、学校、子供会、老人会などの地域資源に施設の働きとニーズをよく説明し、協働させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	石岡内科クリニックとしらゆり歯科医院にそれぞれ週2回定期往診をお願いし、また急変時の臨時往診、その他判断に迷う時の電話相談をお願いしております。	利用者と家族が安心する内科、歯科等の【かかりつけ医】定期受診は安心である。利用者の思いを大切にしながら医療機関との関係維持がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は、まだお元気な利用者ばかりですのでまだお願いしていません。訪問医師との電話相談、臨時往診で対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	臨時往診で入院の可否をお伺いしています。退院後は、入院時の医師と文書(診療情報提供書)や電話で連絡を取っていただいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、入所時に申し込んでいただくなど、家族とホームとの協働が必要と考えます。ただし延命処置などを望まれる場合には退所をお願いすることとしています。	契約時に家族と確認を行っている。急変時にも対応できるよう、ご家族との協働を課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や感染症などの事故発生時には、マニュアルに従って応急手当や初期対応を行うと同時に訪問医師に電話相談し、また臨時往診をお願いし、入院可否や今後の処置について指導いただいています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立会いの訓練と毎月の自主訓練をしております。訓練ではお元気な利用者には消火器操作などを体験していただいております。	既に松戸の園では行政からの指導、協力関係を築いておりホームの自主訓練も行っており、此処では利用者の危機管理意識維持などホーム挙げて訓練を実施している。消火器操作体験などは、介護度の抑止効果に貢献するかもしれない。	またホームだけの食料備蓄も大切である。飲料水、スープでおかゆになるフレーク、排泄ツール、衛生器材など供給が断たれても1週間は生き延びられる方途も検討に値する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームにおける大切な機能と位置づけ、言葉かけや対応についてその都度お互いに注意し合い、また内部の職員研修や勉強会の中心テーマの一つにしております。	利用者の尊厳維持とプライバシー確保は研修で維持、検証されている。声高に利用者を褒める職員の声が気になる。言葉遣いは職員個々の環境により平準化は困難だが、【言葉による拘束】の日常化を防ぐ意味で日々の注意と認識の共有が必須かも知れない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個人個人の思いや希望を折りにふれて聞き出すように心掛けています。また押し付けは絶対に避け、ご自分で決められるようにお声かけなど工夫して支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者お一人お一人のその日その日のペースを知るように心掛け、その日の過ごし方を工夫し、その時その時の状態に寄り添う支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	食べこぼしがこびり付いたりしていないように気を付けるなど、身だしなみに気を付け、その人らしい装いができるよう、さりげなく支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備では男性利用者にも手伝っていただき「男の料理」をお願いし、食べる時は職員も一緒に席に着き、できるだけ利用者に話しかけるようにしています。	かつての主婦の腕の見せ所【食事】準備も時代の進化で【男の料理】との出会い。【主婦】で半生を費した後、ホームや楽しいファミレスでの食事会後は【男の料理】に出会って元気を甦ぐことができる。ホームならではの偶然と喜びが感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養と共に美味しく快く食べて頂くことを大切にしています。インとアウトの水分量のチェックを行っております。高い調理技術の職員の下で、心がこもった食事を取って頂くよう心掛けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者お一人お一人の排泄パターンや習慣を把握して定期的にトイレ誘導するように心掛けています。尿・便の失禁時には必ず温かく柔らかな清拭タオルで清拭しています。	こうしたケアを受けたらきっと嬉しくて感謝いっぱいになるかもしれない。トイレ誘導により排泄グッズが徐々に減る。ホーム挙げての努力の効果が家族を喜ばせている。マンパワー頼みの支援だが、継続に期待する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲料や食事などで予防と排便促進を行い、薬にはできるだけ頼らないようにしています。薬を使う場合は必ず医師の指導の下に注意深く行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回はバスタブ入浴を楽しんでいただいています。ただし体調などでやむを得ない場合はシャワー浴、足浴を行っています。ご自分で入れる方はご自分で入っていただいています。	入浴を楽しむことの出来る支援が実施されている。清潔と皮膚疾患予防を念頭に浴室清潔を保持している。短期間でありながら家族との信頼関係があり、入浴支援からも家族はホームに信頼を寄せ始めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者お一人お一人の体調や生活リズムを把握し、安心して眠っていただけるよう、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに薬の収納箱を設け、一包化して名前と服薬に日時を記載し朝昼夕食前後などに仕分けして収納しています。服用時はその都度ご本人の前で復唱し、飲ませ忘れないように空包を残すようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単純な毎日にならないよう配慮し、職員も一緒に楽しみながら、さりげない支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ散歩に出かけるようにし、また食材などの買い物にも参加していただき、品物の選定、支払い、お釣りの確認などを職員と一緒にいただいています。	散歩と食材購入行動は、楽しいと思われる。心身の健康にも良いと思われるが利用者調査では家族の関心が薄い。ほぼ午前中の散歩時間は家族の訪問時間と食い違い目立たない支援である。利用者にとって心身の健康保持にも良い外出は人手と注意を要する意味でも職員の消耗が激しい支援である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の扱いは利用者ごとに違いがあるので、預かり金からの精算を月ごとに行っています。ただし計算のできる方にはその都度必要額をお渡しして使っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができ、手紙が書ける利用者には、できる限りの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの空間作りをしています。色調も明るく開放感を感じていただける配慮をしています。また共用空間には転倒防止を考え、ソファ等以外の家具以外、物を置かないよう配慮しています。	江戸川堤防に近いせいか、風のとおりが良いホームの共用空間である。周辺もまばらな住宅と畑が混在するのどかな立地である。隣接して同法人運営のホームがあり、職員の交流も可能であり、何かと心強い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の付き合いがあれば、それを尊重するよう席の配置などを配慮し、またソファの寝転がりなどもしていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日も早くホームの生活に馴染んでいただくため、馴染みのものや使い慣れた家具などを持って来ていただくようお願いしています。	安心して住んでいるマイスペースの雰囲気がある。生活支援等、清掃も行き届いて見える。自立した生活を支援の柱としており、開設初年度8ヶ月目の利用者調査【満足度】に対し家族は50%の支持を示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	気の合う利用者同士は勿論、お一人お一人の思いを生かせる配慮など、個々の利用者のお気持ちを尊重し、利用者同士ができるだけ自立した生活が送れるよう工夫しています。		